

(様式1)

令和2年度 自己評価表 (1枚目)

松山北高等学校中島分校  
学校番号(22)

教育方針	自律・共同・誠実を重んじる学校生活を通じて、豊かな人間性と不屈の精神を養うとともに、個性と能力に応じた教育の徹底を図り、国家、社会に役立つ心身ともに健全な市民を育成する。	重点目標	社会貢献できる人材の育成 ― 感謝から自立と共生へ ― 1 基本的な生活習慣の確立を通して、自律心を育みます。 2 体験活動やボランティア活動の実施と部活動の充実により、豊かな人間性と社会性を育みます。 3 基礎・基本の定着を図るとともに、社会人基礎力を育みます。 4 能力・適性に応じたキャリア教育を推進し、生徒一人一人の進路希望を実現しま
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	適切な教育課程の編成	多様な生徒の適性・能力・進路に応じた教育課程を編成する。	A	教員の評価はA、生徒の評価はB、保護者の評価はAであった。	多様な生徒に対応するため、適切な教育課程を研究、分析、検討し取り組む。
		教育活動全体を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、豊かな人間性と社会性の育成に努める。	A	教員の評価はA、生徒の評価はB、保護者の評価はAであった。	地域の特色や人的・物的資源を活かした体験型活動の充実に努める。
	保護者・地域との連携	学校案内、分校通信、ホームページ、生徒会誌「み津ばち」などで教育活動を発信、紹介に努める。	A	ホームページは毎日更新し、1日に1,000を超えるアクセスがある。また、新規にInstagramとYoutubeを開始した。	ホームページを基軸とし、InstagramやYoutube等を充実させ、分校の魅力を発信する。
		年間10日以上以上の教育活動公開日を確保するとともに、来校者数の増加を図る。 A:10日以上 B:9日 C:8日 D:7日 E:6日以下 地域での奉仕活動を年間8回以上実施する。 A:8回以上 B:7回 C:6回 D:5回 E:4回以下	B  D	授業参観、体育大会、文化祭等の学校行事等で公開日を設けていたが、コロナの影響で参加者を限定した。  コロナの影響で予定していた大半の行事が中止、延期となり、目標が達成できなかった。	保護者等が参加しやすくなるよう日程等を考慮するなど、参加者の増加を目指す。  コロナ感染症の状況を確認しながら、積極的にボランティア活動の機会をつくる。
学習指導	教科指導の充実	Wi-Fi設備の活用と個に応じた指導の工夫・実践により、生徒に分かる喜びと意欲を持たせる。	B	生徒の各教科の授業評価の平均は4.2であったが、Wi-Fi設備の使用には偏りがあった。	Wi-Fi設備を活用した授業の研究・実践を行い、指導の改善と工夫を行う。
	家庭学習の充実	各種検定試験において、3級以上の資格取得率90%を目指す。 A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:59%以下 字音に対する意欲と態度を育て、個に応じた課題により、家庭学習1日2時間以上を確保させる。 A:120分以上 B:119~100分 C:99~80分 D:79~60分 E:59分以下	B  A	2年生は、3級以上取得率77.8%、3年生は、3級以上取得率100%であった(平均所得率87.1%)。  家庭学習の平均時間は122分であった。	各学年、全員で取り組む雰囲気ができてきたので、今後も生徒の個性や実力を見極め、結果につなげていきたい。  自ら学ぶ態度の育成という観点から、生徒に応じた課題の工夫を行う。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立に努め、年間出席率95%以上を目指す。 A:95%以上 B:94~85% C:84~75% D:74~65% E:64%以下	B	各学年2学期末の出席率は、1年95.8%、2年83.9%、3年94.9%であった。2年生の基本的な生活習慣の確立を早期に図る必要がある。	全体で91.5%であった。来年度はさらに基本的な生活習慣を図り、生徒自身を高めてもらいたい。
		あいさつができる、けじめをつける、身だしなみが守れる、清掃にまじめに取り組める生徒を目指す。	B	身だしなみを整える意識が回を追うごとに高まっている。清掃に関しても熱心に取り組む姿勢が見られた。	教職員間の共通理解をさらに深め、保護者とコミュニケーションを図りながら、対象となる生徒に早期に丁寧な指導を行う。
		生徒指導に関して、保護者に適切な情報発信を行い、家庭と学校の指導の連携を図る。	A	長期休業中などに心得を配り、保護者にも呼びかけを行っている。情報モラル教育についても外部の協力を得て指導している。	保護者に対して必要な情報をHP等を通して出来るだけリアルタイムに発信する。

※ 評価は5段階 (A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった) とする。

(様式1)

令和2年度 自己評価表 (2枚目)

松山北高等学校中島分校  
学校番号(22)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	個人面接の充実	面接を学期ごとに一人3回以上(年間9回以上)行い、生徒の心情を把握し、生徒理解に努める。 A:9回以上 B:8回 C:7回 D:6回 E:5回以下	B	各学年による定期的な面談のほか、誰にでも相談できるような体制である。	個に応じた生徒指導をしつつ、早期に心情を把握するように努める。
	交通安全指導の充実	生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通事故・違反ゼロを目指す。	B	交通ルールの遵守とマナーの向上に努め、交通事故・違反ゼロであった。保険の加入率は100%である。	今年度も事故ゼロを目指して交通ルールの遵守とマナーの向上に努めたい。
	教育相談・特別支援教育充実	教職員の連携と情報の共有を図り、一人一人に応じた支援体制を整えるとともに教職員の対応力を高める。	C	支援員の配員で教職員の対応力を高めることができた。また、教員間で共通理解を持って指導することができた。	保護者や関係機関との連携を取りつつ、一人一人の現状を把握し改善と検討を出来るだけ早期に行いたい。
進路指導	進路指導委員会の充実	進路課員と担任による進路面談後の進路研究会を全学年、各学期実施し、3年生においては適宜追加実施し、早期に個別で適切な進路指導を行う。	B	担任による進路面談を丁寧に行い、進路研究会を通して生徒それぞれの進路希望を組織的に周知した上で進路指導を行った。	1年次から早く進路目標を設定し、2年後に向けて具体的にどのような対策と習慣付が必要なのかを担当中心によく把握し、組織的に進路指導していく。
	進学・就職指導の充実	保護者との情報交換を丁寧に行い、個に応じたきめ細やかな指導を徹底し、希望者の進学・就職率100%を目指す。 A:100% B:99~90% C:89~80% D:79~70% E:69%以下 進路指導に関して、担任及び進路課による面談を充実させる。生徒と保護者に適切な情報発信を行い、進路実現に向けた家庭と学校の連携を図る。	A	保護者との連絡を丁寧に行い、個に応じたきめ細かい指導を概ね実行できた。3年生の進学・就職率は100%達成した。 担任による面談を丁寧に行った。生徒と保護者に対しても適切な情報発信を行い、進路実現に向けた家庭と学校の連携を図ることはできた。	生徒の家庭と学校生活での様子を保護者と情報共有しながら、生徒の実情と希望を踏まえて、進路実現に向けた支援を徹底する。 1年次から大学や専門学校などの情報を蓄積させ、進路実現に向けて自立した選択ができるように保護者と連携を取る。
特別活動	特別活動等の充実	部活動等に主体的、積極的に取り組む生徒を目指す。	B	限られた時間を有効活用するとともに工夫した取組みで充実した活動となった。	生徒数増加に伴い、全員がより充実した活動ができるような雰囲気と工夫をしていきたい。
		学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身を鍛え、充実感や達成感を感じ取らせるように努める。	A	全ての活動において、生徒が一丸となって取り組むことができた。良い雰囲気での活動ができた。	今後も現在ある学校行事等を見直し、改善できるものに新たなものを積極的に取り入れていきたい。
人権・同和教育	人権・同和教育の充実	事前の資料配布や相談及び研究授業などを通して、人権・同和教育ホームルーム活動を充実させる。	B	人権・同和教育HR活動ではクラスや生徒の実情に応じた課題を設定し、工夫の見える取組ができた。	教員研修を充実させ、教材を工夫する。自尊心を高揚させ、差別解消に向けた行動ができる生徒を育てる。
		人権委員会活動、講演会、人権標語、人権ポスター等により、校内の人権啓発活動による人権意識の高揚を図る。	A	人権委員会活動、講演会等により、校内における人権啓発活動は予定通り実践できた。生徒個々の自尊心をさらに高めていきたい。	様々な人権活動を通して保護者や生徒への啓発、他校との交流、フィールドワークに積極的に参加する。
保健・安全管理	校内美化・環境整備の推進	適切な清掃配置を行い、巡視指導等により生徒一人一人の意識を高め、環境美化を図る。	A	校舎の老朽化に伴い、環境美化にも限界があるが、清掃等には時間いっぱい取り組むことができています。	適材適所に清掃配置を行い、巡視指導等により意識を高め、環境美化を図る。
		生徒と教職員による芝生・校内作業を毎月実施する。	A	毎月の芝生・校内作業及び、職員校内作業等により、芝生や校庭の管理ができた。	季節や天候を考慮しながら効率よく実施する。また、継続してグラウンドのトラックを整備する。
	健康管理の充実	実践力につながる「保健だより」を発行し、健康管理の徹底を図る。また、食育の推進に努める。	A	実践力につながる保健だよりを発行することで、健康管理の徹底を図る。また、食育の推進に努める。	実践力につながる保健だよりを発行することで、健康管理の徹底を図る。
危機管理、安全管理の充実	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。	A	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。	
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の平準化、効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	業務の平準化に取り組み、業務の偏りが生じないように配慮した。	業務の平準化を継続するとともに、引継ぎの徹底、情報(資料)等の共有を行い、業務実行の効率化を図る。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を適宜実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	養護教諭と連携し、健康講座や健康相談等を適宜実施した。	有給休暇の取得を呼びかけ、ワークライフバランスの意識付けを継続的に行う。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。